

Research, Service, Technology を追求していきます

アーレスティは、R・S・T〈Research〉〈Service〉〈Technology〉という三つの言葉の統合です。

Rは単に研究・開発だけでなく、より一層お客様のお役に立っていくための創意と探求、

Sは製品の品質やアフターサービスだけでなく、お客様とのすべての接点、

そしてTはこのRとSを支える知識と技術を示しています。

私たちは常に、より品質の高いResearch、Service、Technologyを追求し、

さまざまな製品を通して、広く社会のお役に立ちたいと願っております。

アーレスティの事業

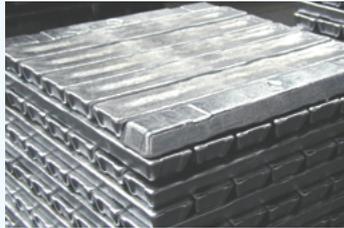
アーレスティはダイカスト業界の大手として、日本はもちろんアメリカ、中国、メキシコ、インド及びタイに拠点を構えるグローバル企業です。

ダイカスト



高い技術を駆使し、自動車のエンジン、足回り、ボディなどのダイカスト製品を生産しています。

アルミニウム合金地金



缶、サッシ、自動車スクラップなど、多様な原料をもとに、高品質のアルミニウム合金地金を生産しています。

完成品



コンピュータールーム、クリーンルームなどにおける最新のニーズにお応えする製品を開発・提供しています。

私たちは、ダイカストのリーディングカンパニーです。

アーレスティは、自動車のエンジン、トランスミッションなどを中心に、様々なダイカスト製品を製造しています。近年では、自動車の軽量化ニーズに伴い、ボディ・足回り関連部品のダイカスト化を積極的に推進しています。

エンジン《自動車の心臓部》

自動車の心臓部であるエンジンには、たくさんのダイカスト製品が使われています。自動車の高機能化に伴うエンジン部品の高品質化、軽量化の求めに応じて、シリンダーヘッドカバー、カムブラケット、シリンダーブロック、ラダーフレーム、オイルパン、チェーンケースなどのエンジン本体部品の他、各種ブラケット類などの部品がダイカストで作られています。

トランスミッション《動力伝達の要》

トランスミッションはエンジンで作られた動力を扱いやすい回転数に変換する機構です。大型、薄肉、複雑な形状に加え、高強度であるとともに寸法精度や外観品質が厳しく、トランスミッションケース、クラッチケース、ハウジングコンバーターをはじめ、オートマチックトランスミッションの油圧回路の制御に欠かせないバルブボディなどがダイカストで作られています。

足回り《走行安定性や走り心地に影響》

足回り部品の軽量化は走行安定性や乗り心地に大きな影響を与えるため、高級車を中心に急速に普及し始めています。足回り部品には剛性、強度、靱性、耐食性などが求められるため、NI法、MFT法などの新しいダイカスト工法で対応しています。これらの工法で作られるダイカスト製品としてはデフメンバー、ステアリングナックルなどの部品があります。



経営基本方針

常に生きいきと活動し 理論と実験と 創意と工夫を尊重して
品質のすぐれた製品と 行き届いたサービスを提供しよう

R S T W a y

「誠実」 「率先」 「スピード」 「成長」 「挑戦」

品質方針

私たちアーレスティは

- お客様がアーレスティから買って良かったと思っていただける製品やサービスを提供します。
- 定められた決め事を守り、お客様の視点で正直にそして良心に従って活動します。
- お客様により良い製品やサービスが提供できるよう改善を続けます。

2011年7月31日 改1

環境方針

1. 私たちは私たちの開発、生産、販売、廃棄の活動が地球環境と深く関連し影響を与えていることを明確にとらえ、環境目的・目標・実施計画を定め、それらを必要に応じて見直し、環境保全活動の継続的な改善をはかります。
2. 私たちは国・地方公共団体・利害関係者などの環境規制、規則、協定などの要求事項を順守し、さらに技術的・経済的に可能な範囲で自主基準を定め、一層の環境保全に取り組めます。
3. 私たちは特に次の項目について優先的に活動し、環境保全と汚染予防に取り組めます。
 - ① 大気汚染、水質汚濁に関する施設・工程の管理・改善を徹底します。
 - ② 廃棄物の再資源化 100%を維持します。
 - ③ 廃棄物総排出量の減量、アルミリサイクル事業の拡大を推進し、循環型社会へ貢献します。
 - ④ CO₂ 排出の抑制をはかり、地球温暖化防止への配慮をします。
 - ⑤ 環境に配慮した製品及び商品の開発・設計に取り組めます。
4. 私たちは従業員一人ひとりの環境保護意識の向上をはかるため、教育・啓蒙活動を継続的に行います。
5. 私たちは良き企業市民として、地域社会の環境保全に努め、地域との共生をはかります。

～ 私たちはこの環境方針を社内外を問わずに公表いたします ～

2005年4月18日 改2

CONTENTS

■ 株主・投資家の皆様へ	4	■ 環境目標と実績	16
■ 本部長メッセージ	6	■ 環境活動	17
■ あゆみ	7	■ 安全衛生	18
■ トピックス	8	■ 生きいきと働ける環境に	19
■ 連結財務ハイライト	9	■ 地域社会とともに	20
■ コーポレートガバナンス	10	■ グローバル展開	21
■ ダイカスト生産体制	11	■ 拠点紹介	22
■ 事業の概要	12	■ 企業情報／株式情報	23

株主・投資家の皆様へ



持続的な成長を目指して

2014年度の売上高は過去最高となりました。円安傾向の為替の影響もありましたが、ダイカスト部門では海外の生産量及び売上高共に国内を超えました。しかし、営業利益面ではアメリカ工場の不振が大きく影響し減益となりました。景気好転による自動車需要の回復に伴い売上が増加したものの、新規製品のつくり込みや増産に伴い採用した新入社員への教育などの対応が不十分であったため生産に大きな混乱が生じました。アメリカ工場の立て直しのために、下期から改善プロジェクトを立ち上げ、予定した2015年3月末までのプロジェクト期間内で生産性の改善は、ほぼ予定通り進みました。引き続き、従業員の教育・訓練や新規製品のつくり込みを徹底いたします。

品質システムにおいて、2014年度を以って国内外ダイカストのすべての拠点がISO/TS16949の認証を取得しました。海外拠点では以前よりISO/TS16949の認証を取得しておりましたが、

国内はISO9001の要求に基づく品質システムでの運用と認証の取得をしておりました。数年前より国内でもISO/TS16949への移行を進め、2015年1月に全てのダイカスト拠点での認証取得が完了いたしました。今後はアーレスティスタンダードのグローバル適応により全拠点での標準化を進めて参ります。

また環境面では、それぞれの工場において環境目標を掲げて活動しており、特に国内ではCO₂排出量原単位（生産量当たりの排出量）2010年比4%減の目標を2014年度に達成いたしました。環境への配慮は一部の特定部署の仕事ではなく、従業員一人ひとりの環境に対する意識と行動が重要と考えております。そのため、当社では独自に定めたエコ検定を進めており、2014年度末では国内従業員の67%が検定試験に合格し環境に配慮した活動を行っております。これからも、環境への配慮や地域社会への貢献を推進いたします。

アーレスティでは、急速な海外工場の拡大による成長の一方で、昨年のアメリカでの生産混乱や過去にはメキシコにおいても生産が混乱いたしました。このような経験をすることで、従来の長期ビジョン「10年ビジョン」で掲げた「ダイカストを核としたグローバルTOP企業」を改め、2015年4月より「信頼を究めよう2025」といたしました。グローバルで「お客様からの信頼No.1」、「車の軽量化に役立つ」、「売上高2000億円+α」をあ

りたい姿とし、グローバルでものづくりを究め改善を共有し仕組みとして定着する活動を行い、持続的な成長を目指して参ります。皆様のご理解とご支援を引き続きお願い申し上げます。



代表取締役社長
最高執行責任者

高橋 新

10年ビジョンと中期経営計画

当社の長期的な経営の方向性を示した「10年ビジョン」では「ダイカストを核としたグローバルTOP企業」となることを基本方針に、「ものづくりを究め、ものづくりを進化させる」ことをスローガンとしてあるべき姿を描き、具体的な指針・手段として方針を定め展開してまいりました。グローバルTOP企業となることを目指し、海外における事業拡大を行ってきたものの、急激な成長に伴う生産トラブル等により安定した収益を継続できなかったこともあり、2014年連結会計年度中に、10年ビジョンを「信頼を究めよう2025」と改定し、「お客様からの信頼No.1」「グローバルで車の軽量化に役立つ」「売上高2000億円+α」をありたい姿とし、お客様からの信頼を究めつつ、安定して持続的に成長していくための基本戦略を事業戦略、機能別戦略、マネジメントの取組みとして

決めました。

新10年ビジョンでも「信頼を究める」ための手段として「ものづくりを究める」ことに変わりはなく、中期経営方針「13153カ年アーレスティ方針」の最終年度である2015年度の方針に、新たに策定した「信頼を究めよう2025」を達成するための基本戦略のうち早期に取り組みべきものを追加するなどの見直しを行い、新「10年ビジョン」をベースとし、信頼を究めることを第一に、グローバル需要が拡大していく中で安定して持続的に成長できるように、中国・北米を中心とした海外ダイカスト事業の拡大を進めると共に、信頼を究めることとものづくりに焦点を当てた方針を「13153カ年アーレスティ方針」として掲げ、次の4つを柱として、全従業員が積極的に活動し計画達成を目指して全力で取り組んでおります。

信頼を究めよう 2025

ありたい姿

お客様からの信頼 No.1
グローバルで車の軽量化に役立つ
売上高 2000億円 + α

1 最善なものづくりの追求と共有

主な施策：現場と設計が一体となったものづくりの再構築、全拠点で同一の品質・生産性の実現

2 ものづくりの現場で活かす技術開発

主な施策：ものづくりを究めるための技術ロードマップに基づく施策、パワートレイン以外の市場の開拓

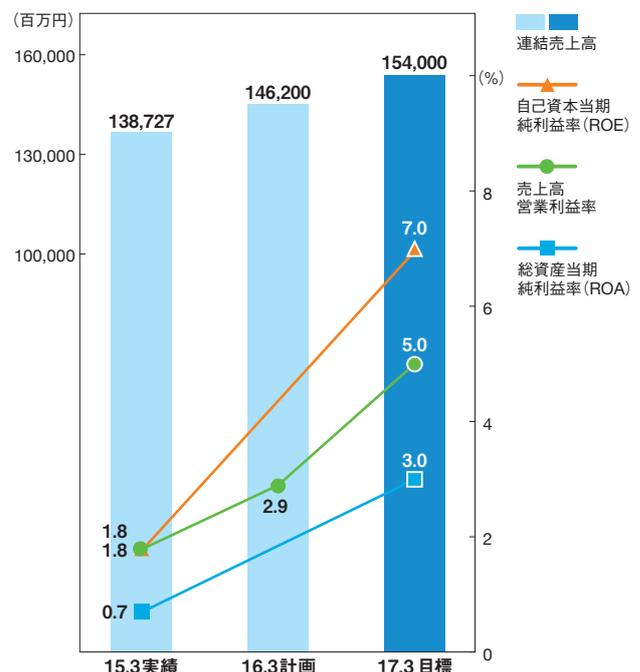
3 ものづくりを支える人づくり

主な施策：実践に裏づけされたスキルを持つ人づくり、3現・2原に基づいた活動ができる技術者の育成

4 健全な利益追求

主な施策：収益力向上による持続的な企業成長と成長市場への展開、業務の効率化、投資効率の高い加工設備構築の実現、工程別・課別コストの見える化による収益管理レベルの向上

中期経営計画の目標値



本部長メッセージ

信頼を究めよう 2025

新10年ビジョン、「信頼を究めよう 2025」。我々アーレスティが持続的成長をしていくためのキーワードです。

管理本部としては2015年度より5つの取り組みを実施します。①社内、社外とのコミュニケーションの充実、女性の活躍推進を含めた自立化支援等を通じた人材育成と、コーポレートガバナンスコードへの対応等を含めた組織構造の追求。②収益管理の質を高め、有利子負債に頼らない

持続的成長のための投資を行えるような財務体質の強化。③情報基盤の強化と、IT部門の積極的な事業活動への参画による業務の質の向上と効率化。④安全な職場づくりの推進。⑤危機管理体制の継続的改善。

これらの活動を通じ、グローバルに成長を続けるグループをマネジメントという側面から支えていくことで、より強固に信頼されるダイカストメーカーを目指していきます。

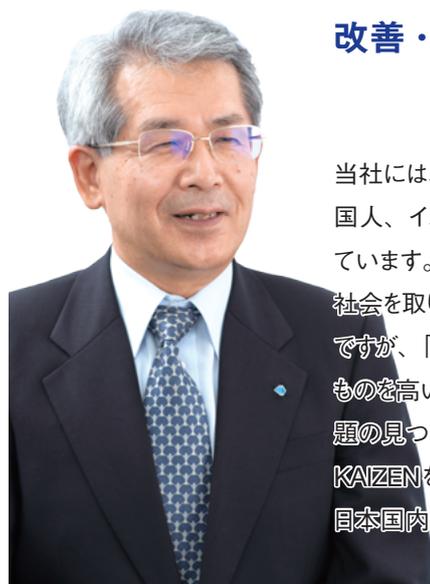
取締役専務執行役員
管理本部長

石丸 博



改善・KAIZEN

はや
もっと速く、もっと力強く



当社には、日本人、アメリカ人、メキシコ人、中国人、インド人、タイ人など多くの国の人が働いています。海外拠点では、言葉や生活習慣や社会を取り巻く環境も異なります。

ですが、「ものづくり」は共通です。優れた品質のものを高い生産性でつくることができるように、問題の見つけ方、解決の仕方など、いわゆる改善・KAIZENを教えるトレーナーの育成を進めています。日本国内の工場から開始し、今年から海外拠点

でも行っています。

数年以内には、育成された多くのトレーナーがより多くのトレーナーを育て、トレーナーと働く人たちが共に改善活動の水準を向上させることで、良品をつくる条件を明確にして設備・機械・金型の信頼性のレベルを更に上げていきたいと考えています。もっと速く、もっと力強く、改善活動により、グローバルで優れた品質のものづくりを目指していきます。

取締役専務執行役員
製造本部長

野中 賢一

総合力を活かして

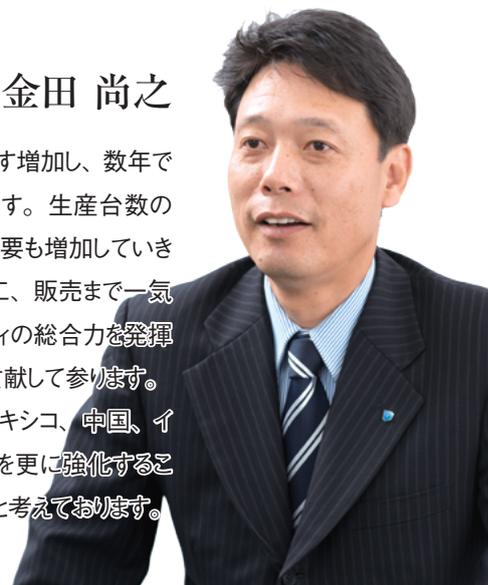
2015年4月に新10年ビジョンがスタートしました。営業本部は、ダイカストの中でもアーレスティの得意分野である、要求機能が高く、難易度の高い大型部品を、従来に増して力を入れ、世界の自動車、部品メーカーに提案していきます。

このようなダイカスト部品はお客様のニーズも非常に高く、また総合力が要求されるため、世界的に見てもグローバルで供給できるダイカストメーカーが限られていると言えます。

世界の自動車生産は今後ますます増加し、数年で1億台を突破すると言われています。生産台数の増加に伴い、アルミダイカスト需要も増加していきます。開発、設計、鋳造、加工、販売まで一貫通貫で行う事のできるアーレスティの総合力を発揮して、これまで以上にお客様に貢献して参ります。営業本部では、日本、米国、メキシコ、中国、インド、各地域の営業マンの連携を更に強化することで、その一翼を担っていきたくて考えております。

取締役常務執行役員
営業本部長

金田 尚之



「品質のすぐれた製品と行き届いたサービスの提供」のために

執行役員
品質保証本部長 兼 品質管理本部長 **荒井 弘司**

私たちの経営基本方針の一文にある「品質のすぐれた製品と行き届いたサービスを提供しよう」、この本質を常に追求し全社に展開すること。それが品質保証本部の役割です。

2014 年度を振り返りますと、既に海外工場が取得していたISO/TS16949（ISO9001 をベースに自動車部品製造に特化した品質マネジメントシステム）の認証を日本国内工場でも取得致しました。管理部門と工場の全部門が一丸となり、それまで日本の各工場が独自で展開していた規程・要領

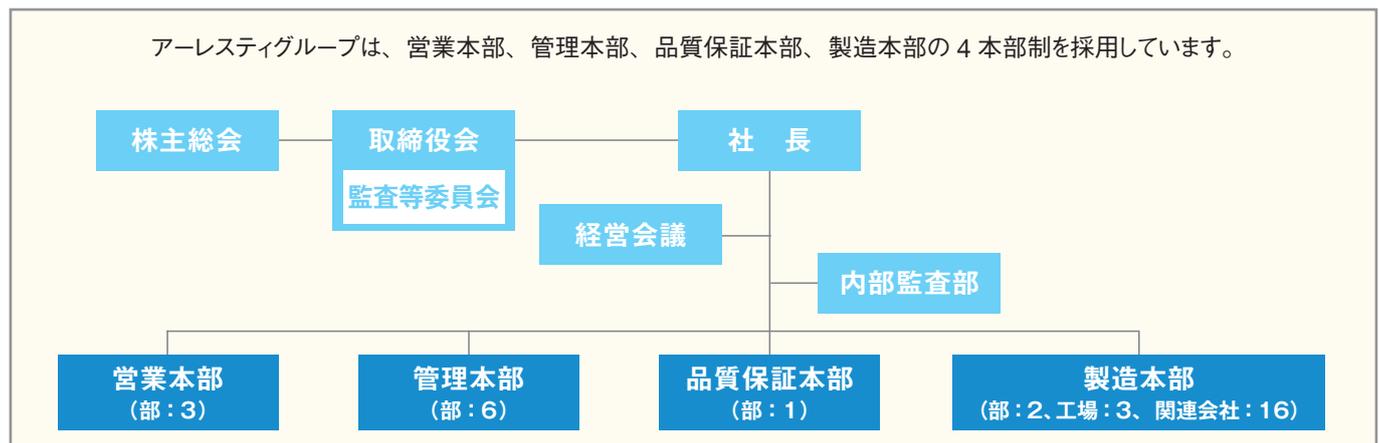
の統一を行うなど、「品質のすぐれた製品と行き届いたサービス」を追求してきた1つの成果です。

しかしながら、この認証取得は通過点に過ぎません。今後はグローバルで、統一されたシンプルで有効性の高い仕組み作りを展開していきます。

「品質のすぐれた製品と行き届いたサービス」の提供を高い次元で実現し、ステークホルダーの皆様からの信頼を究めるため、これまで以上に全社で力を合わせ取り組んでいきます。



アーレスティグループは、営業本部、管理本部、品質保証本部、製造本部の4本体制を採用しています。



あゆみ

- 1938年6月 ● 当社の前身志村アルミニウム株式会社創立
アルミニウム合金地金、ダイカスト製品、アルミニウム砂型鋳物の製造を開始
- 1943年11月 ● 扶桑軽合金株式会社を設立、ダイカスト製品、アルミニウム砂型鋳物の製造を開始
- 1960年3月 ● 株式会社日本精密金型製作所
(現：株式会社アーレスティダイモールド浜松)を設立
- 7月 ● 扶桑軽合金株式会社浜松工場操業開始
- 1961年10月 ● 扶桑軽合金株式会社の株式を東京証券取引所第2部に上場
- 1962年4月 ● 東海精工株式会社(現：株式会社アーレスティプリテック)設立
- 1963年3月 ● 京都ダイカスト工業株式会社豊橋工場(現：東海工場)操業開始
- 1971年3月 ● 栃木フソー株式会社(現：株式会社アーレスティ栃木)を設立
- 1972年3月 ● 株式会社ダイテック(現：株式会社アーレスティダイモールド栃木)を設立
- 1976年9月 ● 熊本フソー株式会社(現：株式会社アーレスティ熊本)を設立
- 1981年3月 ● 株式会社ダイテック熊本工場
(現：株式会社アーレスティダイモールド熊本)操業開始
- 1984年7月 ● 扶桑軽合金株式会社熊谷工場操業開始
- 8月 ● 扶桑軽合金株式会社東松山工場操業開始
- 1985年5月 ● バスカル販売株式会社(現：株式会社アーレスティテクノサービス)を設立
- 1988年5月 ● Ahresty Wilmington Corporation を設立
- 10月 ● 社名を扶桑軽合金株式会社より株式会社アーレスティに変更
- 1989年10月 ● 株式会社アーレスティ'89年度デミング賞実施工賞(中小企業賞)受賞
- 1997年2月 ● Thai Ahresty Die Co., Ltd.を設立
- 3月 ● 株式会社アーレスティISO9001(建材)認証取得
株式会社アーレスティISO9002(ダイカスト・アルミニウム)認証取得
- 2001年3月 ● 株式会社アーレスティISO14001認証取得
- 2002年7月 ● Thai Ahresty Engineering Co., Ltd.を設立
- 2003年8月 ● 広州阿雷斯提汽车配件有限公司を設立
- 10月 ● 京都ダイカスト工業株式会社と株式会社アーレスティが合併
- 11月 ● 第20回素形材産業技術表彰にて「経済産業大臣賞」受賞
- 2005年3月 ● 阿雷斯提精密模具(広州)有限公司を設立
- 4月 ● バスカル工業株式会社と菅原精密工業株式会社が合併し、社名を株式会社アーレスティ山形に変更
- 6月 ● 本社を東京都中野区中央に移転
- 2006年6月 ● Ahresty Mexicana, S.A. de C.V.を設立
- 9月 ● テクニカルセンター開設
- 2007年1月 ● Ahresty India Private Limitedを設立
- 2010年8月 ● 合肥阿雷斯提汽车配件有限公司を設立
- 2011年4月 ● 浜松工場と豊橋工場を統合し、東海工場として再編
- 2013年10月 ● 本店・本社を愛知県豊橋市に移転(旧本社を東京本社に)
- 2014年2月 ● 東京本社を東京都中野区本町に移転
- 3月 ● 東京証券取引所市場第2部から同市場第1部銘柄に指定
- 11月 ● 株式会社アーレスティ東松山工場 ISO/TS16949 認証取得
- 2015年1月 ● 株式会社アーレスティ東海工場 ISO/TS16949 認証取得

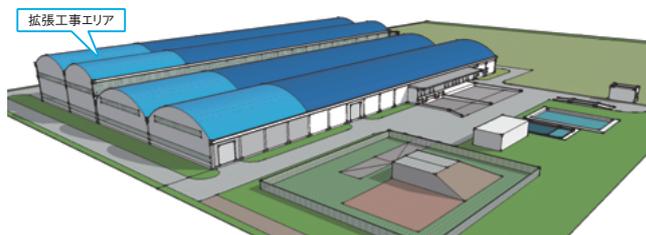
トピックス

2014年

- 4月 アーレスティメヒカーナ鑄造工場の増床工事着工
- 6月 広州アーレスティ フォルクスワーゲン グループへの量産納入開始
- 7月 アーレスティインディア工場拡張工事竣工
- 9月 広州アーレスティ隣接地での工場建設第2期工事竣工
アーレスティメヒカーナ鑄造工場の増床工事竣工
- 11月 アーレスティウイلمinton増築工事着工

2015年

- 1月 国内外全てのダイカスト鑄造・加工工場
ISO/TS16949の認証取得を完了
- 3月 アーレスティ栃木鑄造工場拡張工事着工
- 6月 アーレスティウイلمinton増築工事竣工
- 10月 アーレスティ栃木鑄造工場拡張工事竣工(予定)



アーレスティインディア 拡張工事竣工後の工場外観イメージ図



広州アーレスティ
第1工場と第3工場
第1期工事、
第2期工事エリア



アーレスティメヒカーナ 鑄造工場増床エリアイメージ図

国内外全ての工場で ISO/TS16949 の認証取得を完了

既に取得をしていた海外工場に続き 2015年1月をもって

国内全ダイカスト鑄造・加工工場のISO/TS16949認証取得が完了いたしました。

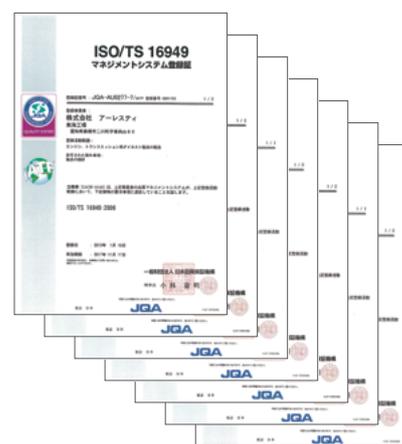
国内工場 ISO/TS16949 認証取得

2014年11月

株式会社アーレスティ 東松山工場
株式会社アーレスティ山形
株式会社アーレスティプリテック 本社/本社工場
株式会社アーレスティプリテック 豊橋工場

2015年1月

株式会社アーレスティ 東海工場
株式会社アーレスティ栃木
株式会社アーレスティ熊本



軽金属7大賞の1つ「第6回軽金属女性未来賞」を受賞 (2014年11月)

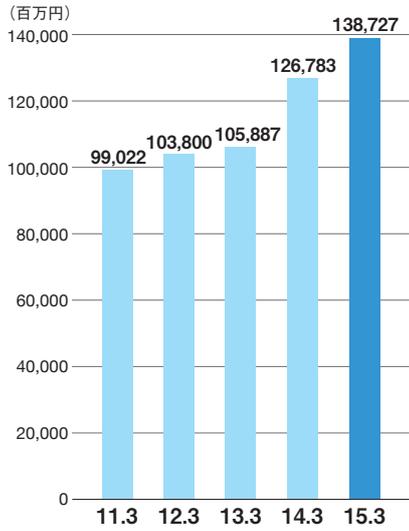
女性未来賞は軽金属7大賞の1つで、軽金属分野において学術研究または技術開発に顕著な功績をあげ、将来の活躍が期待される新進気鋭の女性研究者または女性技術者に贈られる賞です。

受賞者 柳原 恵美(技術部技術開発課所属)

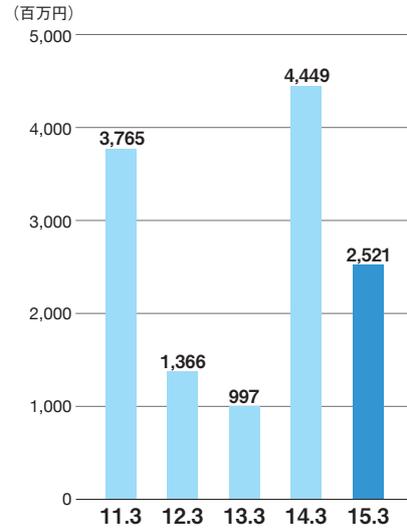
受賞理由 入社以来一貫して試験研究開発業務に従事する中核的人材であり、材料工法チームのリーダーを務め、部下の指導にあたっています。また、社会人ドクターとして大学で勉強に励むと共に、軽金属学会で講演会の座長も務めるなど活躍をしています。それらの功績が認められ、今回の受賞となりました。

連結財務ハイライト

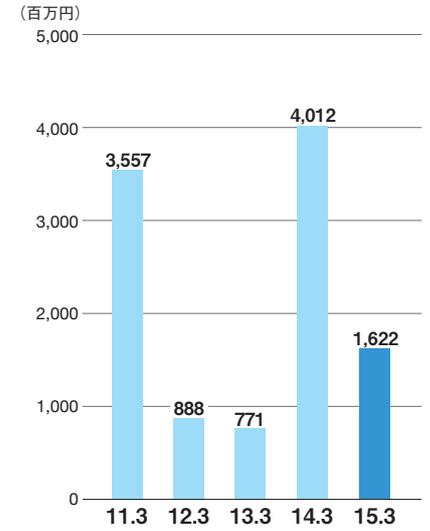
売上高



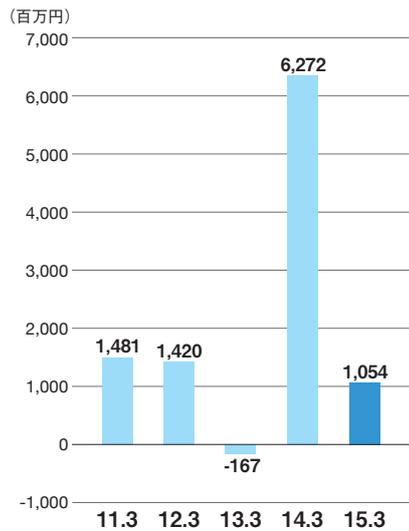
営業利益



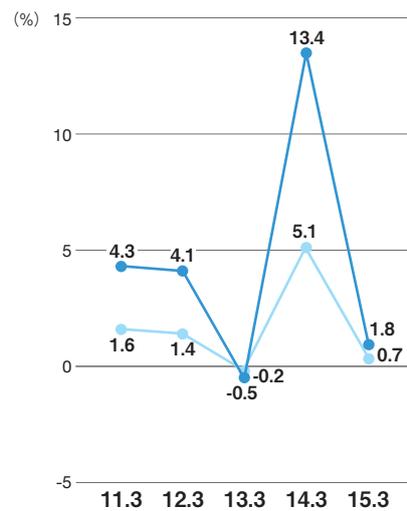
経常利益



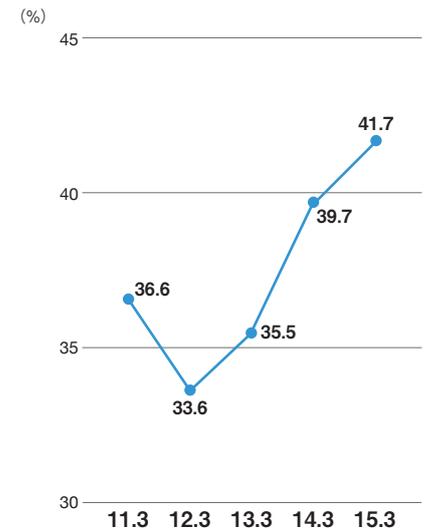
当期純利益



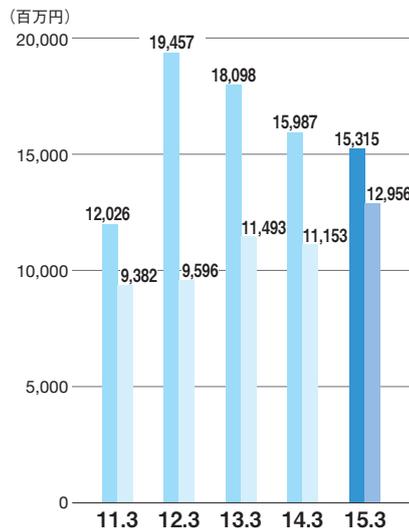
自己資本当期純利益率 (ROE) / 総資産当期純利益率 (ROA)



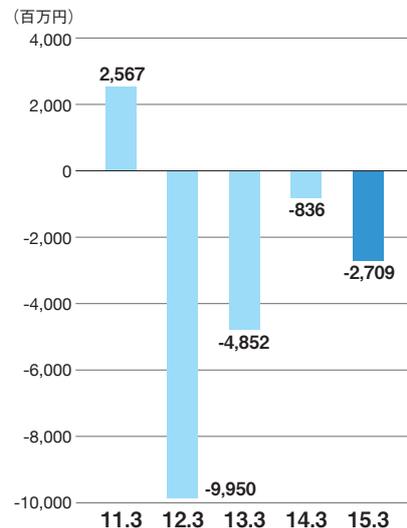
自己資本比率



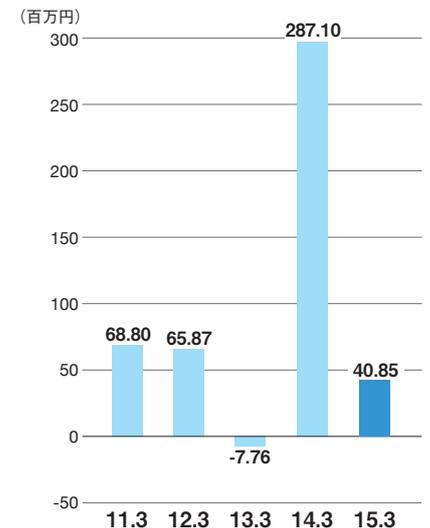
設備投資額※1 / 減価償却費※1



フリー・キャッシュ・フロー※2



1株当たり当期純利益



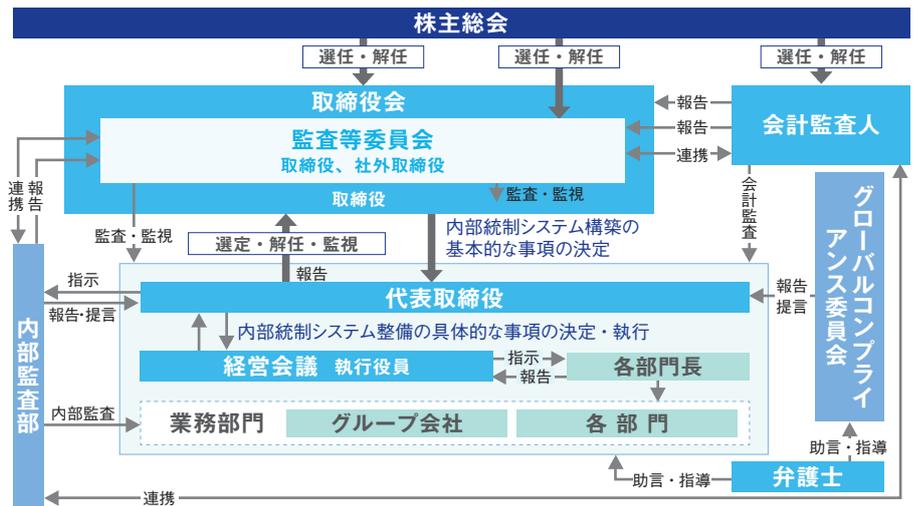
※1 金額は金型を含みます。 ※2 フリー・キャッシュ・フロー=(営業活動によるキャッシュ・フロー)-(投資活動によるキャッシュ・フロー)

コーポレートガバナンス

経営の健全性、透明性、遵法性を確保するため、グループ会社へのガバナンスも含めた内部統制システムとリスク管理体制を構築しています。また、ステークホルダーへの説明責任を果たすため、迅速な情報開示を行っています。

コーポレートガバナンス体制 (2015年6月18日現在)

内部統制システムとリスク管理体制を充実させ、グループ会社の事業活動についても管理・監督を行う経営システムの構築を図ることをコーポレートガバナンスの基本的な方針と考え、重要な経営課題であると認識しています。また、取締役会の監督機能の強化によるコーポレートガバナンスの一層の充実という観点から、自ら業務遂行をしない社外取締役の機能を活用することを目的として、「監査等委員会設置会社」へと移行いたしました。



コンプライアンス基本方針

アーレスティは、コンプライアンスの基準としてこの基本方針を制定し、役員及び従業員は、自らの行動又は業務遂行のための行動においてこれを遵守します。

1. 私たちは、全てのお客様の満足・信頼を旨とし、品質や安全性に配慮して、優れた製品と行き届いたサービスの提供をします。
2. 私たちは、お客様の安心・信頼を念頭に置き、あらゆる法令を遵守し、高い倫理観と責任感を持って行動をします。
3. 私たちは、公正で透明な取引関係を構築し、健全な事業を行います。
4. 私たちは、継続的な企業価値の増大を追求し、魅力ある企業を目指します。
5. 私たちは、お互いに人格・価値観を尊重し、健康かつ安全な職場環境を目指します。
6. 私たちは、会社財産を保護し、適正に取り扱います。
7. 私たちは、全ての利害関係者から不信を招くことがないように、健全かつ正常な関係を維持・確立します。
8. 私たちは、地球環境への配慮を会社の重点課題として認識し、環境保全に向けて自主的かつ積極的に行動します。
9. 私たちは、グローバルな視野を持って、地域の文化や習慣を尊重し、社会への貢献に向けて行動します。
10. 私たちは、企業市民として広く社会とのコミュニケーションを行い、地域の発展と快適で安全な生活のための活動に協力し、地域社会との共生を目指します。
11. 私たちは、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力及び団体に対しては、毅然とした態度をもって対応し、不当な要求や取引の要請等は断固として排除します。

海外関係会社はこの基本方針に基づき各社のコンプライアンス方針を定め、遵守します。

アーレスティグループ行動規範

日常の業務遂行において遵守すべき基本的事項を定めた「アーレスティグループ行動規範」を制定しています。

- ① 法令等の遵守(規範の趣旨・遵守の責任に関する規定)
- ② 顧客・取引先との関係(自由競争と公正な取引等に関する規定)
- ③ 株主・投資家との関係(企業情報、インサイダー取引等に関する規定)
- ④ 従業員との関係(人権尊重、プライバシーの保護等に関する規定)
- ⑤ 会社財産・情報の管理(企業秘密、知的財産等に関する規定)
- ⑥ 社会との関係(寄付行為、政治献金等に関する規定)
- ⑦ 実施要領について

マネジメントシステム

アーレスティグループでは、アーレスティスタンダード (AS) という名称で各種業務の標準を文書に定め、業務の質の維持・向上を行っています。特に品質と環境においては、そのシステムが有効であることを第三者機関に認証頂いています。



アーレスティのダイカスト生産体制

原材料生産から機械加工まで、一気通貫で生産ができる体制が整っています。

※アルミダイカスト製品に関する図

テクニカルセンターによる
技術開発・製品開発・
コンピュータ解析



設計



金型制作



アルミスクラップ
(材料として使用)



原材料生産

溶解



インゴット製造



鑄造



機械加工

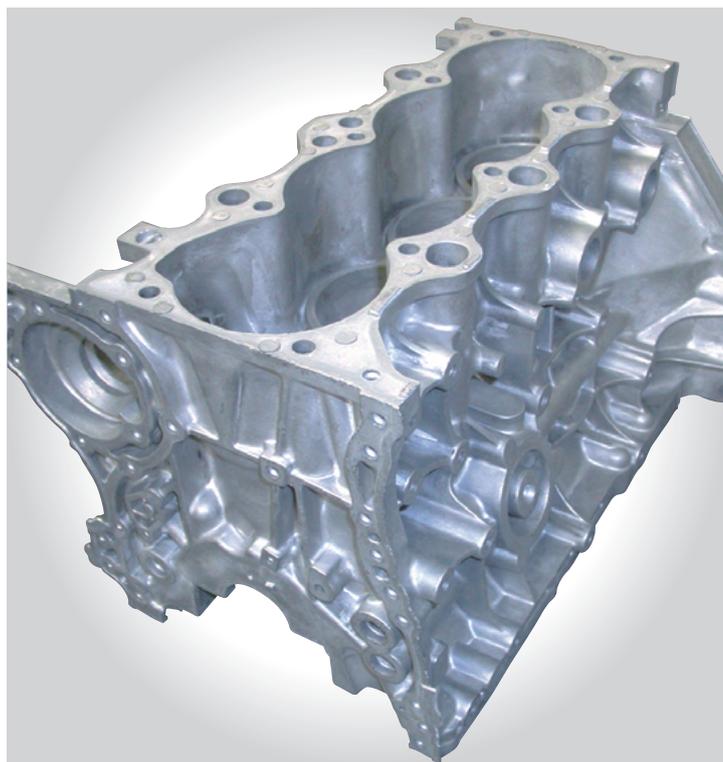


出荷

事業の概況

ダイカスト

他社に先駆けて新技術を開発
ダイカスト業界でトップレベルの信頼を獲得



アーレスティの主力事業はアルミニウムダイカストです。自動車産業の発展とともに事業規模を拡大し、売上を伸ばしてきました。

多様化するニーズに応える一方で、ダイカストのネック技術の原因解明を行ってきた結果、他社に先駆けて新技術を次々と開発。従来ダイカストでできなかったものづくりを可能にし、品質や生産効率を向上させるなど、ダイカスト業界での地位を確立しています。

今後も、アルミニウムダイカスト、マグネシウムダイカストにおいて、軽量化、リサイクルを通して環境保護に貢献できるよう、さらなる技術革新を目指していきます。

主要なダイカスト製品

アーレスティが生産するダイカスト製品の9割以上は四輪自動車の部品です。その他に、オートバイ、発電機や船外機部品なども製造しています。

- アルミダイカスト製品
 - エンジン用
 - トランスミッション用
 - 足回り部品 など
- マグネシウムダイカスト製品
- 金型鋳物製品(グラビティダイカスト)
- その他
 - ダイカスト用金型
 - ダイカスト周辺設備
 - 中古ダイカストマシン再生販売

ダイカスト製品の特徴

ダイカストのダイ (Die) は金型、キャスト (Cast) は鋳物を意味しますが、一般的な意味のダイカストは、金型を用いて高速、高圧鋳造した鋳物やその製法を表します。

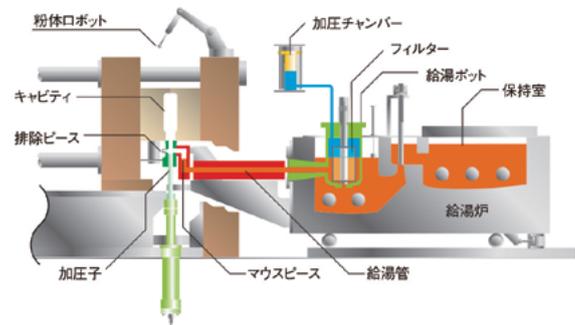
ダイカスト製品の特徴は、生産性の高さと寸法精度に優れており鋳肌が美しいことです。

表面が滑らかな製品を製造することができるため、その後の加工処理が少なく済む利点があります。ダイカストのそのような特徴から複雑な形状で大量生産が必要な自動車部品などに多く用いられています。

NI 鑄造法

アーレスティが開発した特殊な鑄造法として、NI 鑄造法 (New Injection Die Casting Process) があります。NI 鑄造法を用いることにより、通常のダイカスト製品よりも高剛性（変形への強さ）な製品を作ることができます。現在、東松山工場が NI 鑄造法製品の専用工場として生産しています。

この NI 鑄造法については、素形材産業貢献表彰の中で、テーマ「NI 鑄造法による自動車向け足回り部品の開発」が「素形材産業技術賞」最高位の『経済産業大臣賞』を受賞しました。この表彰は、毎年 11 月の素形材月間事業の一環として実施されているもので、「素形材産業技術賞」は 1985 年度に創設されました。



今期の業績報告

【ダイカスト日本】

国内では、主要顧客である自動車メーカーにおいて、消費税率引上げの影響による国内販売の減速が続いているものの、円安を背景に北米市場向けを中心とした生産及び輸出は好調を維持しています。当社においてもこれらの影響を受け、受注量はほぼ前年と同水準であるものの、主に地金市況の影響により、売上高は 63,226 百万円（前期比 1.6%増）となりました。収益面においては、生産設備の減価償却費の増加及び賃上げに伴う労務費の増加等により、セグメント利益は 3,230 百万円（前期比 11.6%減）となりました。

【ダイカストアジア】

中国では、主要顧客である日系自動車メーカーの販売情勢等により、一部で当初の見込みから受注が減少したものの、新規部品の量産本格化や、円安基調にある為替換算影響等により、売上は増加しました。この結果、アジアでの売上高は 27,584 百万円（前期比 14.3%増）となりました。収益面においては、当初計画には至らないものの、主に増収による増益効果で中国合肥工場が黒字化したこと等により、セグメント利益は 662 百万円（前期比 268.1%増）となりました。

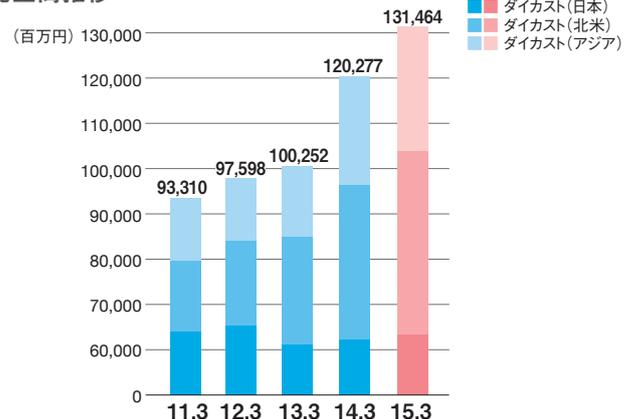
来期への展望

国内の市場環境は、雇用・所得環境の改善傾向が続くなかで、原油価格下落の影響や各種政策の効果もあり緩やかな回復基調が続くものと予想される一方、足元の厳しい国内自動車販売の状況から、厳しさが続く予想されます。また海外では、米国で個人消費及び設備投資が緩やかに増加するなど着実な回復が続くと見込まれる一方、中国では輸出や生産は伸びが鈍化す

【ダイカスト北米】

北米では、アメリカでの好調な自動車販売の影響を受けた受注の増加、部品の新規立ち上がり、地金市況の影響などに加え、円安基調にある為替換算影響等により、売上高は 40,654 百万円（前期比 19.9%増）となりました。収益面においては、アメリカ工場の生産性低下等の影響により、セグメント損失は 1,295 百万円（前期はセグメント利益 509 百万円）となりました。なお、アメリカ工場における生産性改善等の施策は計画どおりに進捗しており、第4四半期の収益は改善が進んでおります。

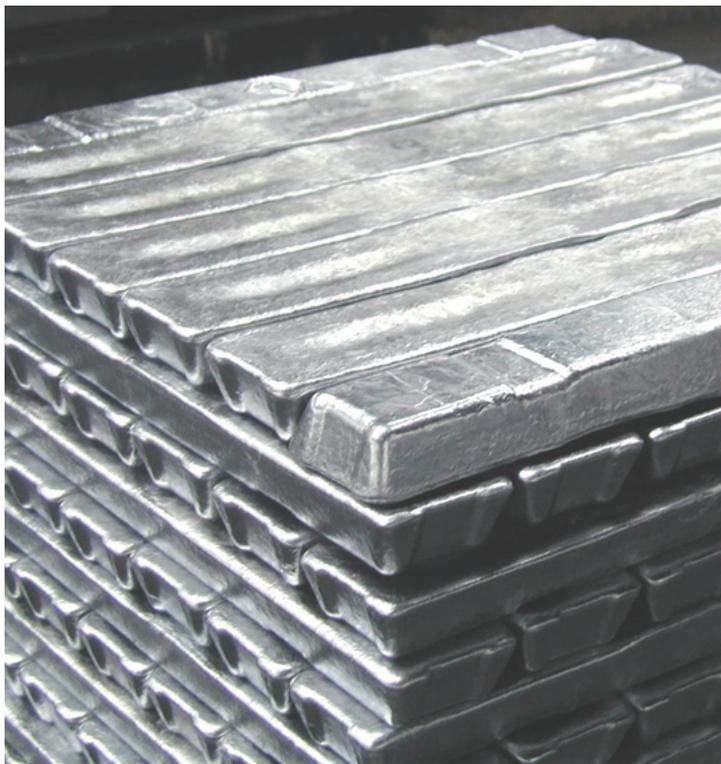
売上高推移



るなど景気拡大のテンポが一段と緩やかになっており、下振れリスクを含むものの、緩やかに増加することが予想されます。このような状況の中、中国、北米を中心とした海外ダイカスト事業の拡大を進めつつ、引き続き生産性の改善、コスト低減活動を推進し、収益改善を図ってまいります。

アルミニウム合金地金

業界トップクラスの設備とノウハウで、
多様な材料から高品質の製品を生産



アーレスティ熊谷工場は、1958年、業界初の日本工業規格（JIS）表示許可工場に認定され、1997年には、改正民活法におけるアルミニウム缶リサイクル施設として、全国で初めて当時の通産省から認定を受けました。アルミニウム缶、サッシ、自動車の解体スクラップなど、多様な原料をもとに機械的性質に優れたアルミニウム合金地金を生産しています。アーレスティが持つ最新の設備、卓越したリサイクルのノウハウによって、工業用地金として活用されています。アルミニウムインゴットの月産能力は3,000トン、日本各地へと出荷され、高い信頼を得ています。

今期の業績報告

アルミニウム事業においては、販売価格の見直しにより、売上高は5,015百万円（前期比7.7%増）となりました。収益面においては、販売価格の見直しと原価低減活動による効果等により、セグメント利益は5百万円（前期はセグメント損失6百万円）となりました。

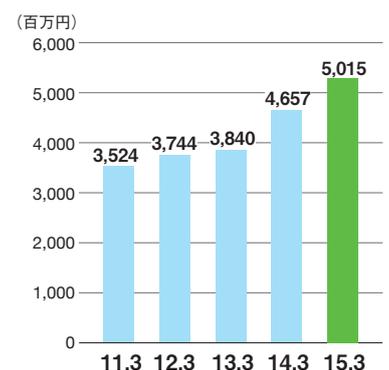
来期への展望

日本国内において、増税後の反動及び税制改正により自動車販売は減少しましたが在庫調整も進んだことにより今後は円安を背景とした生産の回復が一部では見込まれています。為替相場は一時期より安定しましたが、原油価格上昇によるエネルギー費用の増加や、国内原料価格の高騰及び割安感のある輸入塊の大量輸入の課題もあり、当事業を取り巻く環境は厳

しいものとなっています。

そのような環境下でアルミニウムリサイクルの一翼を担う責任と果たすべき役割の重要性を認識し、更なるエネルギー効率化及び生産性向上のための改善活動を推進して、原価低減とリーナな体質の実践を図っていきます。

売上高推移



完成品

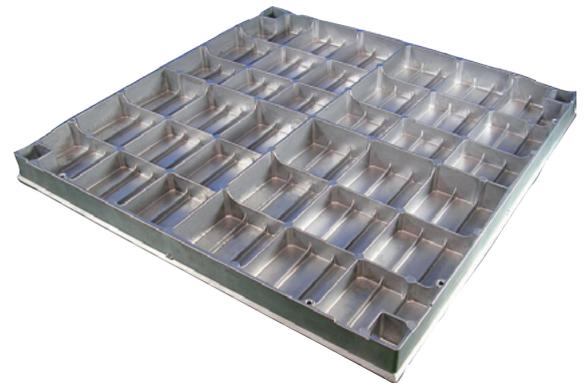
各方面で導入が進むフリーアクセスフロア 時代のニーズに応じて次々と新製品を開発



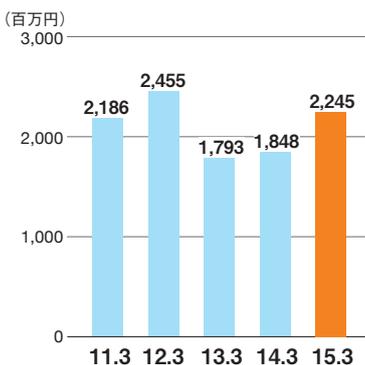
1962年、アーレスティは日本で最初のアルミニウムダイカスト製のフリーアクセスフロアパネル「モバフロア」を開発しました。フリーアクセスフロアとは、配線・配管を床下に納める二重床システムのことです。一般オフィスや病院などに幅広く利用されていますが、当社では特に半導体生産工場などのクリーンルームやデータセンター、コンピュータールーム用フロアパネルに注力しています。

新製品：モバフロアL60A

アルミダイカスト専門メーカーの自負・高い技術力を背景に、最軽量フリーアクセスフロアを商品化。アルミダイカスト単一材なので100%リサイクルであり、軽量化により輸送に伴うCO₂削減効果、建築躯体への重量負担減による長寿命化に貢献、期待ができます。



売上高推移



今期の業績報告

完成品事業においては、主要販売先である半導体関連企業のクリーンルーム物件や通信会社のデータセンター向け物件等の受注により、売上高は2,245百万円（前期比21.5%増）となりました。収益面においては、主に増収による増益効果によりセグメント利益は83百万円（前期比25.5%増）となりました。

来期への展望

アルミ床材のフリーアクセスフロアパネル市場が、日本国内では縮小傾向にある中、当社の売上は3ヵ年連続で増加となりました。2015年度も市場全体のトレンドは縮小傾向のままであると予測しておりますが、国内のクリーンルーム建設が増えつつあるため、更に企業努力を重ね競争力を強化して、当社の「モ

バフロア」を拡販してお客様に貢献したいと考えております。海外においては中国を中心に潜在的なクリーンルームの建設需要があることから、商流の確保と顧客ニーズに応えることで拡販し、事業の成長を目指します。

環境目標と実績

公害防止等の足元のことから、近年最も求められている CO₂ 削減、アーレスティならではの社内環境資格や社会貢献活動においても、結果を出せるように努めています。

2014 年度環境目標と実績

国内目標と実績

※目標達成度 5 達成 1 未達成

環境区分	中期目標・施策	2014 年度目標	2014 年度結果	評価*	2015 年度目標
大気 水質 騒音等	大気汚染、水質汚濁、騒音公害などの環境問題を発生させない	社外流出、苦情の不適合をゼロにする。	2 事業所でそれぞれ外部流出、騒音、振動に関する苦情が発生した。	1	社外流出、苦情の不適合をゼロにする。
廃棄物	廃棄物の総量削減を進める	廃棄物の総量削減を進める。(廃棄物総量の多い 3 事業所にて目標設定)	1 事業所は目標達成となり、2 事業所は、目標未達となった。次年度以降も目標設定を行い活動を進める。	2	廃棄物の総量削減を進める。(廃棄物総量の多い 3 事業所にて目標設定)
省工 省資源	地球温暖化対策として、CO ₂ 削減を行う	CO ₂ 原単位を 2010 年度比 4% 削減する。(目標 885kg-CO ₂ /t) ※すでに達成している事業所は前年度 1% 削減とする	880 kg-CO ₂ /t 目標達成	5	CO ₂ 原単位を 2011 年度比 4% 削減 ※すでに達成している事業所は前年度 1% 削減とする 及び、電気需要平準化評価原単位を 2014 年度比 1% 削減する。
	工程に使用する水の使用量を削減する	2011 年度水使用原単位の 6% の削減活動を行う。	対象の 5 事業所中、3 事業所で目標を達成。	3	2011 年度水使用原単位の 7% の削減活動を行う。
その他	環境に対する意識を高める	各事業所において正社員の 50% 以上を「Ahresty ecoライセンス」合格者とする。すでに達成している事業所は、事業所個別目標を設定する。	全事業所で目標達成。 ※累計の合格者数 1,406 名 (67.4%)	5	各事業所において正社員の 57% 以上を「Ahresty ecoライセンス」合格者とする。すでに達成している事業所は、事業所個別目標を設定する。
	社会貢献活動を推進する	参画率を 61% 以上、一人当たりのエコポイント取得平均を 135 ポイント/年以上にする。	参画率 83.5%、一人当たり 174.1 ポイント/年となり達成。	5	参画率を 62% 以上、一人当たりのエコポイント取得平均を 140 ポイント/年以上にする。

グローバルでの環境管理のため、海外工場においても、CO₂ 削減、水使用量の削減など、国内同様の対象区分で環境目標を策定しています。

経年変化について

CO₂ は活動の削減効果を評価するため、CO₂ 換算係数を過去から固定値で算出しています。排出物量については、活動の成果もあり、昨年度から更に削減しています。

CO₂ 排出量



燃料や電気の使用を CO₂ 量に換算した値です。なお、折れ線グラフで電力会社公表の換算係数で算出した CO₂ 量を併記しています。

CO₂ 排出量原単位



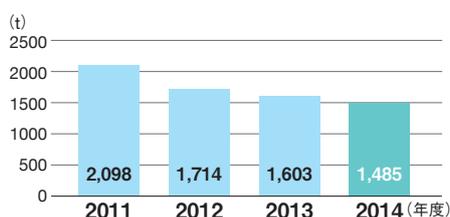
CO₂ 排出量を生産重量で割った値で、1t の生産にいくらの CO₂ を排出したかがわかります。

生産重量



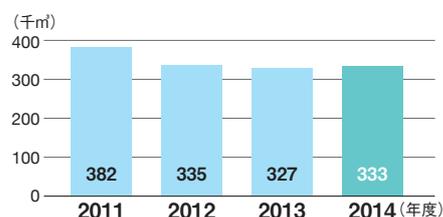
アーレスティが生産した製品の重量です。エネルギー使用量は生産重量に比例します。

排出物量



鉄やアルミを除く、事業所からのすべての排出物で、廃棄物、有価物も含んだ量です。

水使用量



上水及び地下水の使用量です。2011 年度より水資源の節減も目標に加えています。

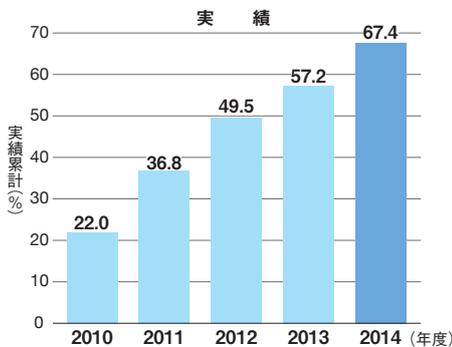
※経年データの存在する国内主要 6 工場のみ数値

環境活動

公害防止活動を始め、地球温暖化防止や資源枯渇対策のための省エネ省資源活動など、生産活動による地球環境への負荷低減に取り組んでいます。

Ahresty eco ライセンス

社員の環境の知識向上を図るため、「Ahresty ecoライセンス」という、環境に関する独自の社内試験制度を設けています。年に数回の試験を実施し、現在まで半数以上の社員が合格し、日々環境意識の高い活動を行っています。



アーレスティ・グリーン大会

アーレスティ・グリーン大会とは、環境の改善活動の活動事例報告会で、今回で第12回の開催となりました。

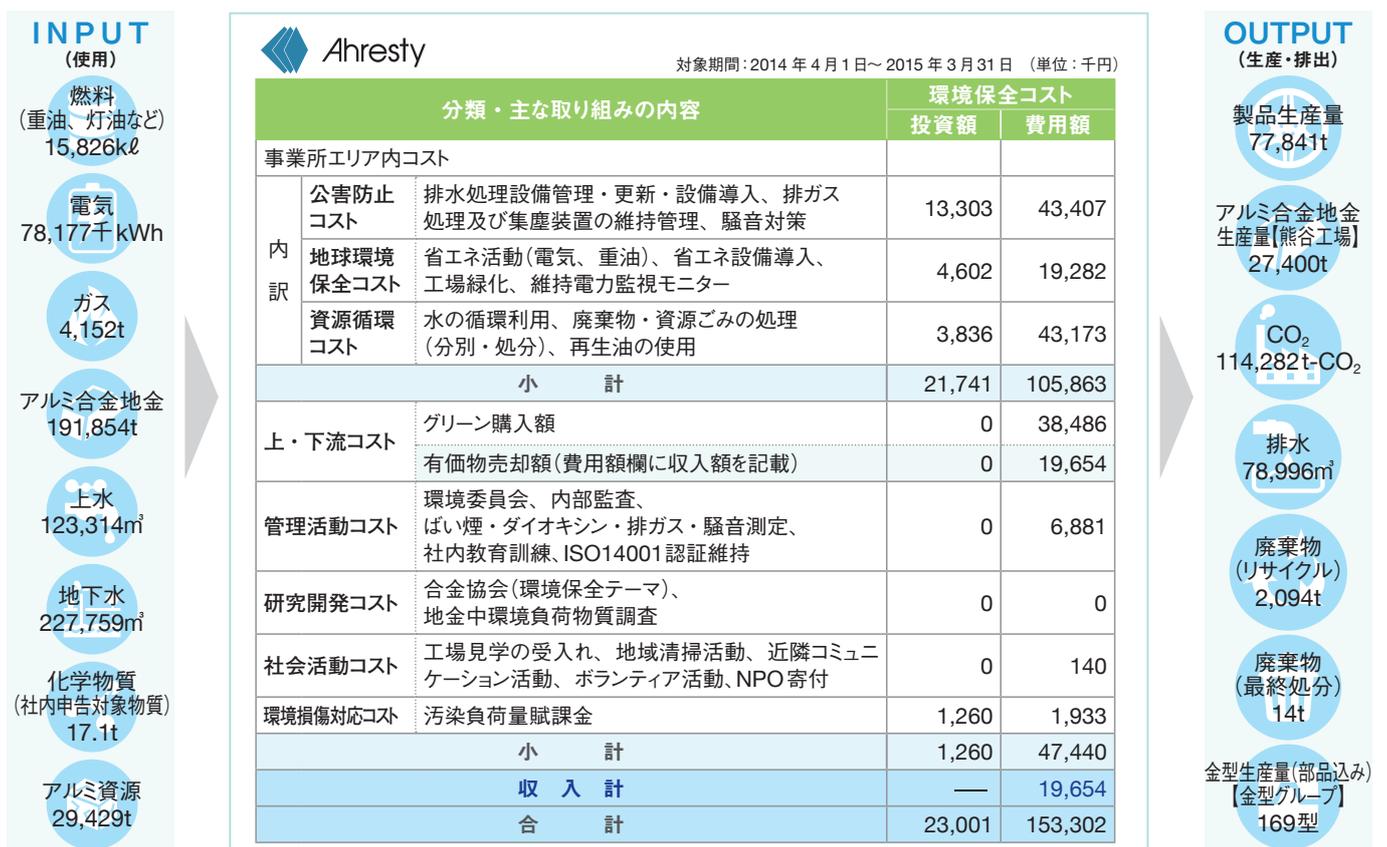
ここで報告された効果的な活動は、他の事業所でも水平展開されるべきとし、昨年度は国内アーレスティグループにおいて、「ダイカストマシンの電気使用量削減」、「溶解炉の燃費改善」、「コンプレッサーのエアリーク削減」というテーマの下、各事業所横断的な省エネ活動を推進しました。

設備・機械を省エネ機種に切り替えるだけでなく、「もったいない」という精神の下、現状の無駄な部分を見出し、改善を進めてきました。今後も継続的に活動をし、CO₂削減とコスト低減を進めていきます。

事業所	テーマ名
東海工場	含浸洗浄廃液廃棄量削減
アーレスティブリテック	切削水漏洩リスクの低減
東松山工場	工場の緑化
熊谷工場	水銀規制を見据えた照明器具の更新
アーレスティ栃木	溶解炉の重油使用量削減
アーレスティダイモールド栃木	照明機器のLED化
アーレスティ山形	コンプレッサーの廃熱利用
アーレスティ熊本	鑄造機手元溶解炉 燃料使用量削減

マテリアルフロー

様々なエネルギー、資材を使い、必要なコストをかけて製品を生産しています。



※投資は設備等固定資産になるもの 費用はその他 ※電力のCO₂排出係数は、最新の電力会社公表値(2013年度値)を使用

安全衛生

アーレスティでは、安全最優先の原則のもと生産活動を行っています。
様々な安全衛生活動を行い、全社をあげて安全な職場を目指しています。

安全衛生の取り組み

安全衛生基本方針

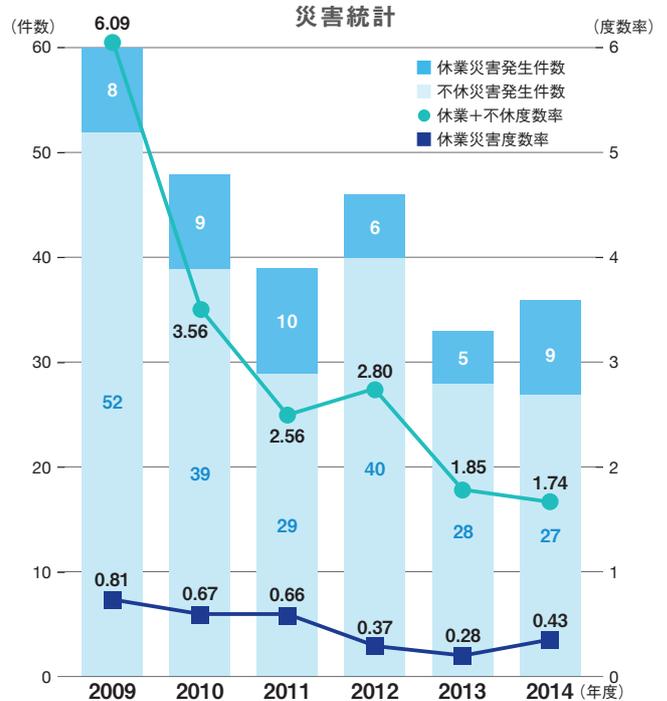
安全で快適な職場環境づくりを目指し、法令及び社内規程を遵守すると共に、『安全はすべてに優先する』を基本に安全衛生活動を推進する。

安全衛生3カ年方針(安全衛生中期計画)

- リスクアセスメントの定着による危険職場の明確化と改善
- なぜなぜ分析を活用した安全衛生活動の展開
- 日常管理の強化による不安全行動の撲滅

アーレスティグループ安全スローガン

「しないさせない 見逃さない 危険な作業と不安全行動
決め事守って 感度を上げて みんなでつくろう安全職場！」



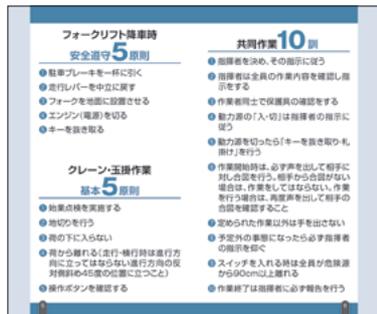
※度数率=災害件数×1,000,000÷延労働時間

2014年度重点活動実績

- リスクアセスメントの有効活用による、職場の安全性の向上
- 事業所内で、リスクアセスメントを教えられるインストラクターの育成
- 人づくり、風土づくりを意識した安全感度向上活動でのルールを守る職場の実現
- 強化月間の設定による安全感度向上活動
- KY重点テーマ設定による安全感度向上活動
- 安全に関する監督者教育

安全衛生手帳

国内で事業所ごとに個別発行していた安全衛生手帳を統合し、国内統一ルールとして発行しました。これをベースに、グローバルの安全ルールを定めていきたいと考えています。



月間強化テーマ活動

重大災害のリスク低減や、過去発生災害の再発防止のために、「設備安全の不足」「安全感度不足」の是正が必要と考え、引き続きリスクアセスメント実施や各設備安全仕様の整備、毎月テーマを決めての職場パトロール徹底やヒヤリハット気配、KY活動をグローバルで展開していきます。

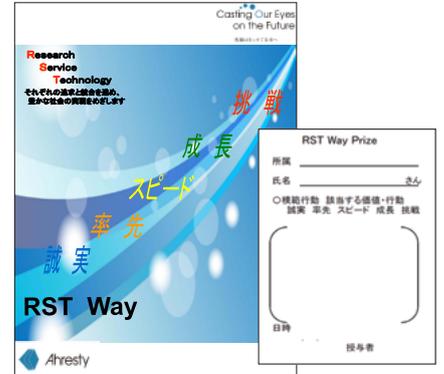


生きいきと働ける環境に

アーレスティの一員として、生きいきと働くため、社員一人ひとりがスキルを向上させ、自ら生み出す製品に自信を持ち、優れた製品によって社会に貢献していきます。

RST Way と RST Way Prize

RST Way の「浸透促進」と「コミュニケーションの活性化」のためにグローバルで導入した制度が RST Way Prize (アーレスティ ウェイ プライズ) です。RST Way とは、働く社員が大事にしなければいけない5つの行動基準「誠実」「率先」「スピード」「成長」「挑戦」を言い、RST Way Prize はこれらに基づいた行動・意識に対して、表彰をする制度です。



教育体系

社員への安全衛生・生産管理・品質管理・環境保全等の教育は、全社員が受講する「共通教育」とマネージャー向けの「マネジメント教育」、各種の専門技術を学ぶ「専門教育」の大きく3つがあり、体系的に教育を受講出来る体制を整えています。特に専門教育では、アーレスティグループ内のスペシャリストから教育を学べる貴重な機会も設けられています。

社内コミュニケーション

国内社員とご家族向けの広報誌「Will」とグローバルグループ広報誌「All for One」を発行しています。これらの社内広報誌では、その時々旬な話題について取り上げたり、社員の入社や定年退職、結婚や出産といった情報を掲載しており、通算 446 号を発行しています。

また壁新聞のピックアップの1つとして、アーレスティで生産した自動車部品の採用状況を紹介し、自社の生産活動が身近に感じられるよう取り組んでいます。

国内版グループ報
「Will」



グローバルグループ広報誌
「All for One」



(英語版)

地域社会とともに

アーレスティは、地域社会に根ざした工場を目指して日々努力すると共に、自らが率先して社会へ貢献できる人材を育てています。地域社会と共にアーレスティは発展していきます。

社会貢献活動

アーレスティでは、会社の仲間と気軽に楽しみながら社会貢献が出来るよう、各種の社会貢献活動の場を提供し、活動推進しています。地域や河川敷の清掃、里山保全、献血、福祉、地域防犯パトロール等、事業所ごとに様々な社会貢献活動を継続して実施しています。



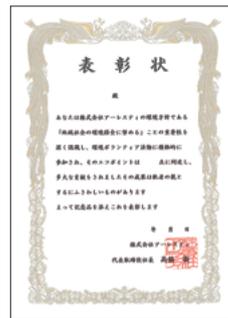
- ### 活動事例
- アーレスティの森づくり(里山づくり)
 - 岩屋緑地里山ボランティア活動
 - フラワーロード清掃
及び河川アダプト活動
 - 介護施設クリーンボランティア
 - 赤十字血液センター
献血ボランティア
 - 浜名湖クリーン作戦
 - 荒川の恵みと熊谷を考える集い
 - 天竜川クリーン作戦
 - 梅田川ふれあいクリーン作戦
など 計約 80 イベント

近隣コミュニケーション

アーレスティの工場では、ダイカストを鋳造する音や加工する音、運搬車両音、工場特有の臭気などが発生します。これらの発生源対策を進める一方、工場に隣接する住宅や自治会、企業などを訪問し、問題を感じたときにはご連絡頂くようお願いをしています。訪問時には本レポートが、アーレスティとはこういった企業なのかをご理解頂くためのコミュニケーションツールとなっています。

エコポイント制度

社会貢献活動に参加した社員へポイントを付与し、一定以上のポイントを取得した社員を表彰する制度を設けています。皆さんの前で表彰されることは恥ずかしいという意見もありますが、会社として表彰したいという想いを込めて、皆さんの前での表彰を推進しています。



グローバル展開

世界中のお客様のニーズに対応するため、積極的にグローバル展開を推進しています。

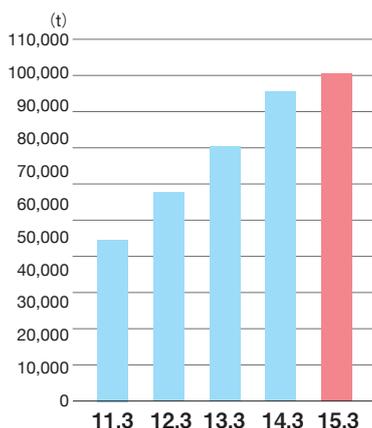
より早く効率的にお客様に製品を安定供給するために、アールスティは積極的に海外展開を推進しています。アメリカ オハイオ州ウイルミントンに次ぎ、中国広州、メキシコ、インド、中国合肥にもダイカスト製造工場を設立し、順調に生産量を拡大しています。これまで培ってきた技術とノウハウを活かし、高品質

な製品をグローバルで製造・販売しています。また、タイ、広州、メキシコの金型拠点も含め、材料・金型・ダイカストなどすべての事業において相互補完体制を構築し、グローバルかつグループ・ワイドでの全体最適の実現を目指しています。

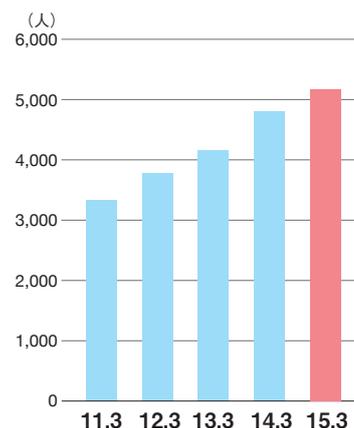


海外販売重量／従業員数推移

海外販売重量



海外従業員数



拠点紹介

主な海外事業所



Ahresty Wilmington Corporation

事業内容：ダイカスト製品の製造、機械加工、部品組付
 月産能力：1,800t
 敷地面積：170,000㎡



広州阿雷斯提汽车配件有限公司

事業内容：ダイカスト製品の製造、機械加工、部品組付
 月産能力：2,700t
 敷地面積：81,825㎡



合肥阿雷斯提汽车配件有限公司

事業内容：ダイカスト製品の製造、機械加工、部品組付、フリーアクセスフロア製造
 月産能力：1,100t
 敷地面積：50,500㎡



Ahresty Mexicana, S.A. de C.V.

事業内容：ダイカスト製品の製造、機械加工、部品組付、ダイカスト製品用金型製作
 月産能力：2,400t
 敷地面積：100,000㎡



Ahresty India Private Limited

事業内容：ダイカスト製品の製造、機械加工、部品組付
 月産能力：1,000t
 敷地面積：58,500㎡



Thai Ahresty Die Co., Ltd.

事業内容：ダイカスト製品用金型製作
 敷地面積：16,940㎡



阿雷斯提精密模具(広州)有限公司

事業内容：ダイカスト製品用金型製作
 敷地面積：8,748㎡

主な国内事業所



東海工場

事業内容：ダイカスト製品の製造
 月産能力：3,200t
 敷地面積：70,994㎡



東松山工場

事業内容：ダイカスト製品の製造、機械加工、部品組付、フリーアクセスフロア製造
 月産能力：300t
 敷地面積：22,781㎡



熊谷工場

事業内容：アルミニウム合金地金の製造
 月産能力：3,000t
 敷地面積：47,105㎡



本社・テクニカルセンター

事業内容：製品の設計・研究開発
 敷地面積：18,067㎡



(株)アールスティ栃木

事業内容：ダイカスト製品の製造、機械加工、部品組付、フリーアクセスフロア製造
 月産能力：2,800t
 敷地面積：97,844㎡



(株)アールスティ熊本

事業内容：ダイカスト製品の製造、機械加工、部品組付
 月産能力：500t
 敷地面積：34,342㎡



(株)アールスティ山形

事業内容：ダイカスト製品の製造、機械加工、部品組付
 月産能力：500t
 敷地面積：35,156㎡



(株)アールスティブリテック

事業内容：オートバイ・自動車・汎用機の主要構成部品の精密機械加工
 敷地面積：23,616㎡



(株)アールスティテクノサービス

事業内容：ダイカスト周辺機器の製造・販売・修理ほか
 敷地面積：9,241㎡



(株)アールスティダイモールド浜松

事業内容：ダイカスト製品用金型製作
 敷地面積：13,320㎡



(株)アールスティダイモールド栃木

事業内容：ダイカスト製品用金型製作
 敷地面積：6,612㎡



(株)アールスティダイモールド熊本

事業内容：ダイカスト製品用金型製作
 敷地面積：12,987㎡

企業情報

会社概要

(2015年3月31日現在)

商号：株式会社アーレスティ
資本金：69億3,909万円

設立：1943年11月2日
従業員数：【連結】7,373名【単独】862名

役員

(2015年6月18日現在)

代表取締役社長 最高執行責任者	高橋 新	取締役 常務執行役員	蒲生 新市	社外取締役 (監査等委員)	早乙女唯夫
取締役 専務執行役員	石丸 博	取締役 常務執行役員	金田 尚之	社外取締役 (監査等委員)	志藤 昭彦
取締役 専務執行役員	野中 賢一	取締役 (監査等委員)	見目 康夫	社外取締役 (監査等委員)	浜村 承三

株式情報

(2015年3月31日現在)

株式数および株主数

発行可能株式総数：60,000,000株
発行済株式の総数：26,027,720株
株主数：4,939名

所有者別株式分布状況

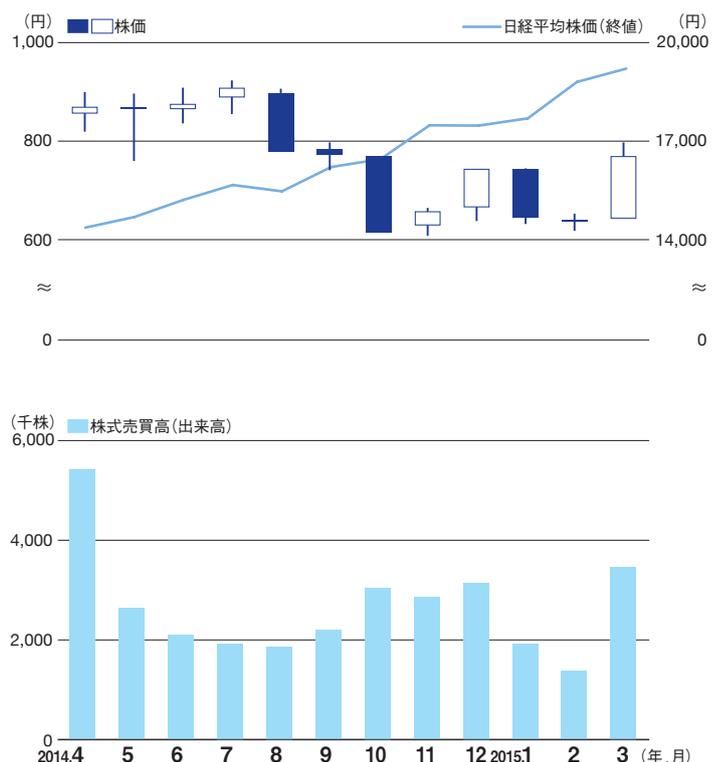


大株主

(上位10名)

株主名	持株数 (千株)
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口)	2,039
高橋 新	915
株式会社三菱東京UFJ銀行	765
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505041	684
日本軽金属株式会社	657
MSCO CUSTOMER SECURITIES	623
THE BANK OF NEW YORK - JASDECNON - TREATY ACCOUNT	589
アーレスティ取引先持株会	568
スズキ株式会社	565
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	551

株価・株式売買高の推移



Casting Our Eyes on the Future

視線はまっすぐ未来へ

タグライン「Casting Our Eyes on the Future」は、その社名に込められた企業理念を実現すべく、アールスティで働く者すべての視線が、常にお客様、地球環境、そしてアールスティ自身の未来へ向けられ、Research（研究開発）、Service（サービス）、Technology（技術）において常に主導的リーダーとして前進しようという企業姿勢を具現化したものです。なお、「Casting」は「投げかける」という意味の他に、当社の主要事業である「Die Casting」の意味も込めています。



株式会社 **アールスティ**

東京本社

東京都中野区本町 2-46-1

中野坂上サンブライトツイン 5F

TEL 03-6369-8660 FAX 03-5358-5331

URL <http://www.ahresty.co.jp>

発行 2015年6月

